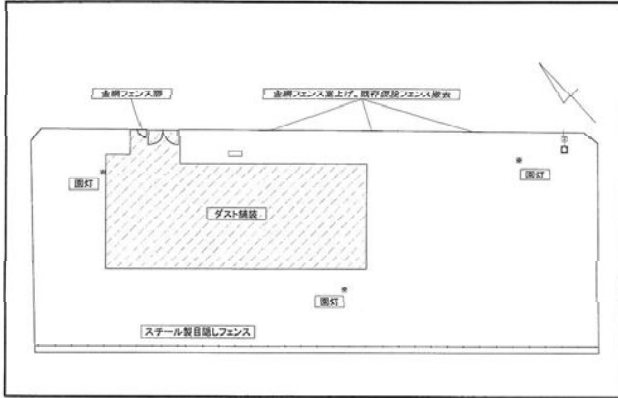


## 2000㎡のひろば 防災利用を中心に整備

J R職員住宅跡地の南側の2000㎡の敷地は、ただいまひろばとして整備するために設計を行っています。今回の工事は、ひろばの中央部で防災訓練などが行えることと、災害時に防災活動が行えることを目標にしています。工事内容は、次のとおりです。

- ①南側の万年塀が老朽化して危険なため、鉄製のフェンスに交換します。
- ②ひろばの中央部分をダスト舗装とし、防災訓練がやりやすいようにします。
- ③ダスト舗装部分を中心に暗渠排水を設置して、ひろばの水はけをよくします。
- ④現在の道路側のフェンスはそのまま残します。一部に仮設用のフェンスを取り付けているところは、フェンスを増設します。
- ⑤現在の入口の脇に人が出入りしやすいように扉を設置します。
- ⑥非常時にはカマドとして利用できるベンチを設置します。
- ⑦園内に外灯を3基設置します。



⑧南側に植わっている桜のうちの2本は、幹が腐りはじめていて危険なため伐採し、新たに桜を植えます。ひろばの工事は、12月中旬に工事業者を決め、工事に取り掛かる予定です。来年3月頃には完成の予定です。近隣の方々にはご迷惑をお掛けしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

## サバイバル・ワンポイント講座 その16

# 暖をとる

新潟ではいまだに沢山の方が避難所生活をおくってられます。避難所の多くは学校の体育館。晩秋とは言え、夜の冷え込みは相当に厳しいことでしょう。これから本格的な冬を迎えるにあたって、寒さ対策はとて大切になります。

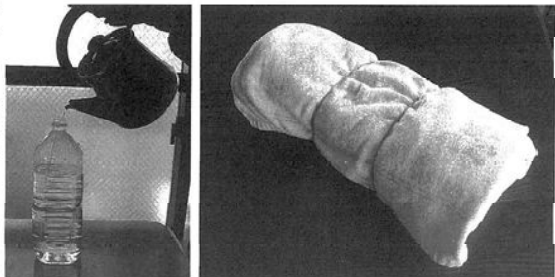
今、避難所生活をしている方々にとても喜ばれているものがあります。ペットボトルの湯たんぽです。作り方は簡単。2リットルのペットボトルにお湯を入れ、バスタオルなどを巻きつけるだけです。タオルが保温してくれますので、夜入れたお湯が朝まで温かく残っています。足元が温かいと身体も温まります。それで安眠できるようになったという声も寄せられています。

寒さの状況に応じて、ペットボトルの数を増やせばよいでしょう。タオルが薄いと湯が冷めやすくなりますし、やけどの危険もあります。適当な厚さにしてください。また、寝ている間にタオルが解けないように、紐や輪ゴムでしっかりと縛ることも忘れないうください。もちろ

ん、ペットボトルではなくとも、蓋がきちんと閉まるガラスやアルミのビンでも大丈夫です。

実はこのペットボトル湯たんぽは、阪神淡路大震災で考案されたものです。やはり冬の避難所生活を余儀なくされた被災者の方々が考えだし、広めたそうです。今回の新潟では、阪神淡路の経験者の方々が大勢ボランティアとして新潟に駆けつけましたが、その時に食料や水などと一緒にお湯の作り方を教えてください、とても喜ばれているそうです。体験に基づいた防災知識が役立ついい例になっています。

ひとつ、注意があります。普通のペットボトルは85度以上のお湯を入れると変形する恐れがあります。お湯は沸騰する前か、沸騰したら少し冷ましてから入れるようにしてください。(おのかずき/エコライ)



池袋本町

# 防災まちづくり

ニュース

Isabakura Honryo  
Bosai-Machi Zokuri  
News  
**no. 34**

2004年12月4日発行

発行:池袋本町防災まちづくりの会  
豊島区住環境整備課  
問い合わせ先:住環境整備課  
TEL.03-3981-0489  
編集協力:(株)防災&都市づくり計画室

## 震度7!新潟県中越地震

### 被害の特徴

去る10月23日の夕方、新潟県の中越地方を直下型地震が襲いました。阪神淡路大震災以来の震度7、そして大きな被害。この誌面をお借りして被害に遭われた方々にお見舞いを申し上げます。

今度の地震の特徴はいくつかあげられます。まず地震動が極端に激しかったことです。地震の揺れを表す加速度では、阪神淡路大震災の3倍もの揺れを記録しています。また、大きな余震が発生し、しばらくの間続きました。

しかし、そのわりには建物の被害が少なかったというのも印象的です。全壊した家屋は2499件ほど(消防庁発表11月19日現在)。これは雪国のため建物が頑丈だったことが幸いしたと言われています。そのため家の下敷きや、その後の火災で亡くなられた方が少なかったことが阪神淡路との大きな違いと言えます。

一方で、日本でも有数の地すべり地帯ということもあり、地すべりや土砂崩れがたくさん発生しました。秋の長雨の集中豪雨、連続して上陸した台風の影響もあり、緩んだ地盤は大きな地震の前にはもろくも崩れ、各地に大きな爪あとを残しました。それが山間の集落を孤立させ、村全員が避難するところまで出てしまいました。そのため、家屋の被害が少ないわりには、避難した住民が多いことも、今回の地震の特徴と言えます。

### 活かされた教訓

阪神淡路大震災から10年目の節目をあと2ヶ月余りで迎えようとしていた時、新潟県中越地震は発生しました。阪神淡路では、たくさん問題点が指摘されました。今回、その教訓は活かされたのでしょうか。

政府は、地震発生直後から官邸にある内閣情報集約セン



ターが情報を集め、4分後には官邸対策室を、翌日には非常災害対策本部を設置しました。自衛隊もすぐに情報収集を開始し、24日早朝から、孤立した被災地での救援活動のためヘリを重点的に展開しました。

各自治体の対応もすばやいものでした。翌日には職員や救援物資、給水車が統々と現地に向かい救援活動を開始しました。豊島区でも昨年11月に締結した防災協定により震源に近い堀之内町(現魚沼市)へ、発生翌日(24日)には食糧や救援物資を現地に届けました。これはマニュアルが作られ、迅速な対応が可能になったためと言えます。

### いまだに残る課題

一方、阪神淡路の教訓は、最も弱い立場の被災者には活かされていないところが多いという印象を持ちます。家屋が被害を受けた世帯には義援金が分配されますが、家屋を直したり生活を再建するには、とても十分とは言えない金額です。被災者の救援については阪神淡路以後にいろいろと議論されてきましたが、実現はしていません。

今、東京で大地震が起こったら……。新潟や神戸の被害を上回ることは目に見えていますが、具体的な対策や被災後の支援策はまだこれからと言わざるを得ません。

つれづれに一言  
十一月二十日、友人の妻の  
実母を送り届ける便に同行  
し、魚沼市堀之内地区を訪  
問しました。中越地震の中  
心から十キロ程度しか離れ  
ていない地域です。被害に  
ついてはすでに発表されて  
いますが、市街地と山間地  
域とは、地形によって大  
きな差があることが幸窓か  
らも感じられます。豪雪地  
帯ゆえの耐雪構造が幸い  
し、家屋損壊が少なく、そ  
れによる被害もこの程度で  
済み、九年前の阪神の時と  
の違いを感じます。友人の  
縁者からその時の様子につ  
いて伺いました。恐怖や不  
安、避難所暮らしの状況は  
想像を超えています。  
阪神淡路大震災の翌年には  
じまった本町の防災まちづ  
くりですが、九年前と今づ  
の、悲しい犠牲を伴った体  
験は、生かさなければと強  
く思います。  
最後に、中越地方の方々に  
は、自分と家族の生命と暮  
らしを守るこの時こそ、あ  
えて「がんばりましょう」  
という言葉添えたいと思  
います。(青山H)